

- 問一 歴史的仮名遣いを○でかこみ、現代仮名遣いに直しなさい。  
問二 原文を現代語訳しなさい。

〔原文〕

今は昔、竹取の翁といふ者あり  
けり。野山にまじりて竹を取りつ  
つ、よろづのことに使ひけり。名  
をば、讃岐の造となむいひける。  
その竹の中に、もと光る竹なむ  
一筋ありける。あやしがりて、寄  
りて見るに、筒の中光りたり。そ  
れを見れば、三寸ばかりなる人、  
いとうつくしうてゐたり。

〔現代語訳〕

- 問一 歴史的仮名遣いを○でかこみ、現代仮名遣いに直しなさい。  
問二 原文を現代語訳しなさい

〔原文〕

かぐや姫、泣く泣く言ふ、「さきさまも申

さむと思ひしかども、『必ず心まとはしたま

はむものぞ。』と思ひて、今まで過(こ)しはべり

つるなり。さのみやはとて、うち出ではべり

ぬるぞ。おのが身は、この国の人にもあらず、

月の都の人なり。それを、昔の契りありける

によりなむ、この世界にはまうで来たりける。

今は、帰るべきになりければ、この月の十

五日に、かの元の国より、迎へに人々まうで

来むず。さらずまかりぬべければ、おぼし嘆

かむが悲しきことを、この春より、思ひ嘆き

はべるなり。」

と言ひて、いみじく泣く。

〔現代語訳〕